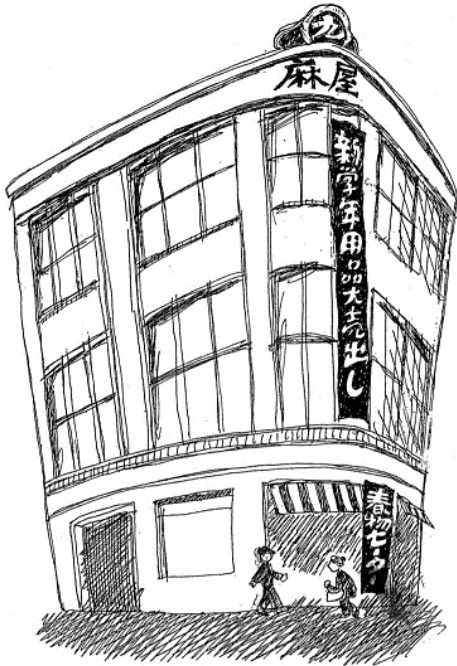


《くらさんの目を通して見たちょっと気になるニュース》

昭和9年建設「東のアサヤ」解体工事はじまる



前橋市千代田町の旧麻屋百貨店ビルの解体工事が進んでいると新聞が報じています。前橋や近隣の町で1960年代までを過ごした熟年の人たちにとっては「アサヤ」は懐かしい響きをもつようだ。

麻屋は1939年（昭和9年）創業の県内初の百貨店。当時の流行を豊かに取り入れた品ぞろえと、屋上の観覧車、タイル張りの外壁やアールデコ調の建築様式が老若男女を惹きつけました。解体の話が持ち上がった昨年、これを惜しむ市民から保存を訴える声があがり署名運動も始まっていました。

市民が麻屋の保存を訴える理由は「郷愁」や「建築様式」だけではありません。貴重な「戦争遺跡」なのです。1945年8月の前橋空襲で市内が焼け野原と化したとき、麻屋はしっかりとその姿を残しました。市民にとっては復興への道標

であり、平和を願う気持ちの象徴となったのです。西の広島原爆ドームにならって「東の麻屋」と言われる所以です。

保存運動を展開した「前橋に平和資料館設立をめざす会」はフォーラム会員の岩根承成さん（前橋国際大講師）が代表。運営委員の内藤真治さんも中心メンバー。内藤さんは、「“アカガミ”、“防空頭巾”など、様々な戦争資料を展示、保存する努力が平和につながる」、「太平洋戦争開戦への危険な流れを感じながらも国民はそれを押しとどめることができなかった。現在の状況もそれに近い。流されずに、問い直す気持ちを失いたくない。」と語る。

所有者も保存の道を模索したが維持には莫大な資金が必要。解体は苦渋の決断だったそうだ。東京新聞紙上の77歳女性の言葉が胸にジーンときた。「焼け野原となり、遠くからこの建物だけが見えた時の感動と希望は忘れられない。」

